

浅草寺病院だより

平成 28 年
【秋号】

平成 28 年 10 月 8 日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草 2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



ご挨拶

事務部長 桐ヶ谷 孝

本年 4 月より事務部長に就任いたしました桐ヶ谷 孝と申します。宜しく願いいたします。浅草寺病院は明治 43 年(1910 年)東京が明治期最大の水害に見舞われた際、浅草寺の境内を開放して救護所を設置したのが歴史の始まりと聞いています。縁ありまして、そのような歴史ある病院で働くことができる喜びの一方、その責任の大きさを痛感している次第です。

私は今年の 3 月まで東京都の職員でしたが、最後の 5 年間の都庁勤務以外は、大学を卒業以来ほとんどの期間を病院職員として勤務してきました。6 年ぶりの現場復帰ですが、現在は「日に新たに、日々に新たなり」をモットーに邁進しております。

さて、医療を取り巻く環境は年々厳さを増しており、さらに団塊の世代が後期高齢者のピークになると言われる 2025 年問題が取りざたされております。国では「地域包括ケアシステム」や「地域医療構想」を整備してその対応に当たろうと考えているようですが、私は今後当院のような 200 床クラスの規模で、地域にお住まいの方々に利用される病院がその担い手になっていくのではないかと考えています。

当院は地域の方々の「かかりつけ医」として、浅草にお住まいの方々を住み慣れた浅草で、開業されている先生方と一緒に“地域で支える”ことに貢献出来たらと思います。

一方で、世間では企業は「人」と言われますが、病院も例外ではありません。今後も、地元根差した診療を行っていくためにも、経営もさることながら、職員の働きやすい職場環境を整えることも私の使命だと考えております。私の好きな古今亭志ん生の「落語」や池波正太郎の「鬼平犯科帳」に登場するこの「浅草」で日々新たに頑張っていきたいと思っております。

最近、「いつのまにか骨折」などという言葉をよく耳にします。骨には作る細胞と壊す細胞があり、一生同じ骨ではなく造りかえられています。女性の場合、50 歳ころに閉経を迎え性ホルモンが低下します。骨の新陳代謝には、この性ホルモンが大きくかかわっています。よって、残念ながら閉経後の女性は、骨粗鬆症になる危険性が高いのです。65 歳を超えると背骨の骨折を起こす頻度が上がるといわれています。自分では分からないうちに骨折してしまう、これが「いつのまにか骨折」です。1 個骨折すると、また骨折を起こす確率が 3 倍になるといわれています。そうなる前に、検査しておいたほうがよいでしょう。

当院での検査は、骨密度検査と血液検査を行います。血液検査はカルシウムなどを測るだけではなく、骨を作る細胞と壊す細胞の代謝産物を測定します。つまり簡単に言うと、骨の作るスピードと壊れるスピードが測れるということです。これにより、たとえ骨粗鬆症になっていなくても、なり易いかどうかわかります。

高齢者の骨折頻度は欧米に比べて日本は高い状態です。骨粗鬆症治療の普及が遅かったためと考えられています。骨折予防の為に、早めに検査することをお勧めします。

一般病棟の看護師より皆さまへ…

一般病棟 看護師

当院の3階にある一般病棟は、60 床あり特別室、個室、大部屋(4 人部屋)で構成されています。患者さまが入院後も安心して治療や入院生活を過ごして頂けるよう、看護師は継続受持ち制を導入し、入院された患者さまを退院まで責任をもってお世話させていただいております。継続して患者さまを受持つことで、さらに患者さまに寄り添った看護が提供出来る事を目指しています。

歴史深い浅草寺の病院として地域に密着し、100 年以上経過してまいりました。浅草という土地柄もあり、地域の皆さまに愛され続けていることを実感しております。病院理念の「大慈悲のみこころにそって、思いやりの精神のもとにあたたかい医療を提供します」をモットーに一同仕事に励んでいます。患者さまの中には、長年外来通院を経て入退院を繰り返す患者さまも少なくありません。そのため、患者さまと同様にご家族との関わりも重要だと考えています。「こんにちは」「又、宜しく願います」と気さくに声を掛けて頂く事もあり、入院中の患者さまの悩みや相談を受けるケースもあります。私たち看護師は、いつでも患者家族の立場に立って考えながら、さまざまな橋渡しをしていかなければならないと思っています。また入院患者さまがスムーズに退院できるよう、入院時から退院を見据えた計画を立て、関わっていく事も重要な仕事です。今や周りを見渡せば超高齢化社会となり、さまざまな問題を生じております。一人暮らしや老老介護の方も多く、自宅へ退院できない状況も多く見受けられます。病棟スタッフは、患者家族との関わりの中で、問題を早期に把握し、患者さまを含めたチーム医療(医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、栄養士、薬剤師)を目指し実践しています。

これからも患者さまが安心して入院生活を送る事が出来るよう援助してまいります。

